

「平和への道」諸宗教の集い 聖エジディオ共同体主催
宗教と生態学：環境の緊急事態

シュディーラ・クルカルニ
オブザーバー研究財団（ORF）会長、ムンバイ、インド

11th September 2017

私の尊敬する議長、Ambrogio Spreafico（アンブロジオ・スピアフィコ）司教、敬愛するパネリストの方々、そして聴衆の皆さん、おはようございます。

私は、インドからのヒンズー教徒の代表として、毎年世界の宗教間および文化間の会合に私を招待してくれた聖エジディオ共同体に感謝しています。過去 30 年にわたり、聖エジディオ共同体は、世界の平和、調和、紛争解決、人間の尊厳のための非常に尊敬され、影響力のある対話プラットフォームとして活躍しています。

私はこの大会の皆さんにインドの人々からの挨拶をお伝えします。

今日私はまた、偉大な兄弟国ドイツに敬意を表するとともに、平和を愛し、高い達成感と親切的なドイツ人に私の最も深い賞賛、心のこもった賛辞を表明します。

「宗教と生態：環境の緊急事態」の対話をテーマとしたこのセッションでは、ヒンズー教からの平和のための祈り「シャンティ・マントラ」を朗読することから始めさせていただきます。

*Om Dyauh Shaantir-Antariksham Shaantih
Prthivii Shaantir-Aapah Shaantir-Aushadhayah Shaantih /
Vanaspatayah Shaantir-Vishve-Devaah Shaantir-Brahma Shaantih
Sarvam Shaantih Shaantireva Shaantih Saa Maa Shaantir-Edhi /
Om Shaantih Shaantih Shaantih //*

意味は

オム、天国に平和がありますように。
地上と天空に平和、平和は水にあるべきである、
ハーブと木々が平和になるまで、
すべての神々が平和になるまで
ブラフマに、そしてすべてが平和になるまで。
そこにはすべて平和がありますように
そして、私たちすべてが平和を実現しますように。
Om 平和、平和、平和！

ヒンズー教は、すべてが神の創造物であると考えているので、すべてに神を見ています。人間は神の特別な創造物です。しかし、人間と神の家にいるすべての人間以外の創造物たちとの間には、不可欠で、不可分で相互依存的な親族関係があります。

私を驚かせたのは、平和のためのヒンドゥー教の祈りと、生態保護の守護聖人アッシジの聖フランチェスコの有名な賛美歌との間の緊密な共鳴です。それは教皇フランシスが2015年に世界に提示した聖なる教皇フランシスからの「共通の家のためのケアについて」という回文で引用されています。

この中で、聖フランシスは、主とそのすべての生き物を、兄弟なる太陽、姉妹なる月、兄弟なる風、姉妹なる水、兄弟なる火、木、鳥などと賞賛します。

確かに、すべての宗教は、母なる地球、母なる自然、そして宇宙の神の無限の創造物を尊重するよう教えてくれます。神聖なヒンズー教の本 Bhagavad Gita (バガヴァッドギタ) で、神性を具現化しているスリ・クリシュナは、「私は宇宙に浸透しています。宇宙のすべての物体は、花輪の糸の上に真珠のように私の上に残ります。」と述べています。

この糸の真珠は傷つけられません。そしてこの神聖な糸の部分は傷つけられません。調和のとれた共存と共生は、宇宙が維持される基本的な原則です。この原則に違反することは、災害を引き起こすこととなります。

ヒンズー教によると、宗教や法は持続可能性と同義です。どのような法律ですか？その答えは、インドの古代言語である「Dharanath dharma uchyate」のサンスクリット語で示されています。-すべての種族を支え、それらの間の調和のとれた関係を維持するのに役立ちます。言い換えれば、そのような生態学を妨害するものは、法に沿わないもの- または無宗教です。

過去 200 年間に人類がしたことは、人間と人間以外の生態系間の共生を妨げ、実際にはかなり破壊したことである。確かに、これは彼が座っている木の枝を切り取っている木こりのようなものです。

愚かな木こりのこの隠喩は決して人騒がせなものではない。現在の生物圏の人間破壊率が継続すれば、生存している植物および動物種の 20%までが 30 年以内に消失する可能性があり、その半分は 21 世紀の終わりまでに消滅する可能性がある。ホロコーネの絶滅として知られているこの人為的な大量絶滅は、生態学的な大量虐殺に過ぎず、人類が人間以外の自然と戦う侵略戦争である。

しかし、人類は自然の生物多様性の不可分な部分であるため、侵略者と被害者が同じであることを理解することなく、人類が人類に対して戦っている戦争でもありません。環境についてのインドの言葉は「parivarana」です。つまり、本質的に提供される第 2 の皮膚を意味します。皮膚に害があると、体は苦しんでしまう。

国家は常に戦争中に緊急事態を宣言します。制限および制限は、通常の世界活動、権利および自由に与えられます。たとえ戦争の努力によって要求されれば、ある種の経済活動さえも限られてしまいます。

不思議なことに、この環境緊急事態において、この自己犠牲的な環境戦争では、人間はそのような制限や拘束に直面しません。いつものようにビジネスです。

人類が深い眠りに入ったかのようです。それは自然な眠りではありません。習慣的な薬物濫用によって引き起こされる中毒誘発睡眠です。

この場合、「薬物」中毒は、世界を席卷する消費主義的で欲求促進的な経済成長の中毒である。西側で起きたこの偏った反エコロジー経済成長モデルは、現在世界のほぼすべての地域に広がっています。

友よ

私たち全員が、世界が直面している環境問題の大きさと重大さを知っています。人類や他の種をこのエコロジー緊急事態から救うために何が重要かについて、協調的な行動と相まって深刻な議論が必要です。

環境緊急事態に対抗するための 10 のアイデア

簡単に、私はここで環境緊急事態に対抗するための 10 のアイデアを提出したいと考えています。これらのアイデアは世界中の有力な環境思想指導者と活動家によっても提唱されています。

1 つ：世界は、自然を尊重し、環境にもたらされる大きな被害を逆戻りさせ始めるための、経済成長と開発の新しいパラダイムへの緊急な移行を行う必要があります。貧困の除去は、もちろん、この新しいグローバル化モデルの第一の目標でなければならない。結局のところ、教皇フランシスの言葉によれば、「世界の貧困はスキャンダルです」。

同時に、グローバル化の新しいモデルは、過度の消費主義を意識的に放棄し、物質的な欲求を追求する際の適度を促進しなければならない。ヒンズー教の理想の理想は、ウパニシャッドの格言で言われています。

Tein tyaktena bhunjitha

これは、「資格や所有権の意識をなくして、あなたの栄養に必要なものだけを取り、残りは他人に残す」という意味です。

2 つ目は、経済成長と開発の新しいパラダイムが、共有、保全、リサイクル、再利用という古くからの美德を復活させるであり、つまり経済と生態学が調和している新しいライフスタイルということである。

3：すべての宗教は、貧しい人を助ける豊かな人の原則と、貧しい人を守る強いものを賞賛します。この原則は、国際関係、そして国家内の貧富の関係における実践的な表現を見出すべきである。

マハトマ・ガンジーは、この原則に名前をつけて、この普遍的な兄弟姉妹の理想を普及させようとした：信託統治 - 「それぞれがすべてのため、すべてはそれぞれのため」。これはガンジーの社会主義の核でありました。「個人が比例配分以上になると、神の他の創造物のためのその部分の管理人になる」。信託統治は、世代間の正義を保証するという観点からも意味があります。つまり、健全な形で将来の世代に環境を渡すための道義的な義務があります。

4：「信託統治」の原則は、人間と他の種との関係においても同様に真実である。ガンジーは、「信託統治」という概念を経済学を超えて環境の領域にまで拡張しました。人間は、「下等な動物の王国の受託者である」と彼は宣言した。ガンディアン環境主義は、非暴力の世界観と一体的に結びついている。「人間は下等な生物の君主と主人だと言っているのは、傲慢な前提です」と書いています。それどころか、人生の中でより大きなものが与えられれば、彼らは下等な動物の王国の受託者です」。

確かに、植民地主義の非常に元々の再解釈では、ガンジーは、他の「劣った」人々に対する自然と言ひ回しは、両方とも植民地主義の現れであると断言した。

5：教皇の回勅に強く述べられているように、「共通の家のケア」は、世界全体の共通の責任です。しかし、それはより豊かで強く、環境への大きな被害をもたらした国々により多くの責任があります。彼らは利子を持って“生態学的債務”を返済しなければならない。

6：気候は共通の利益です。気候変動が海洋、森林、内陸水資源、耕作可能な土地など地球規模の共有物に重大な脅威をもたらしたことは否定できない。2015年のパリ気候変動枠組条約は、環境を保護する国際的な責任を果たすための歓迎すべき大きな一歩です。最近の一部の国、特に米国のトランプ政権がパリ協定に基づくコミットメントを遵守しないことは非難される。彼らは義務を果たさなければならない。

7つ：議論や環境保護の是正措置において非常に顕著ではない1つの点は、人類の発展と地球共通の健康の両方に対する軍国主義の莫大なコストである。昨年、世界各国は軍事施設に1兆6000億米ドルを費やしました。このうち、米国だけで6110億ドル、それに続く5か国の大きな軍事費 - 中国（2150億）、ロシア（690億）、サウジアラビア（630億）、インド（560億）、フランス（560億）

2030年までに安全な飲料水、衛生、気候変動対策などのために国連の持続可能な開発目標（SDGs）を達成するには、約6兆ドルが必要とされています。世界の軍事支出が、国家の安全保障を危険にさらすことはない、3分の1に減少すれば、次の12年間にすべてのSDG（開発目標）を満たすことは確かに可能である。したがって、この最も重要な目的を達成するための世界的な要求はなんでしょうか？軍国主義も国際協力の最大の障害であることを忘れないようにしましょう。

8：私たちの平和会議は、ドイツのウェストファーレン地域のミュンスターとオスナブリュックで行われています。世界各地で、ヴェストファーレンは30年戦争を終結させた

1648 年の平和条約で知られており、近代国家主権の概念を確立しました。効果的な国際協力の必要性は、国家主権の主張と反ばくによってしばしば挫折してきたので、国家とその主権の概念のいくつかの側面を見直す時が来た。地球が私たちの共通の家であれば、その世話と保護を邪魔するものは何もないはずで、環境の緊急事態は、グローバルな協力のための新しく効果的な提携を構築することによってのみ対抗することができる。

9：人類史上最も技術的に進んだ時代に生きています。環境への破壊の多くは、科学技術の悪用のために起こった。しかし、この破壊は、現代科学技術の革新的なツール、特にデジタル技術、ナノテクノロジー、ロボット工学、人工知能、大規模データ分析、新素材、3D 印刷などが賢明に利用されるならば、停止し、逆転する可能性があります。これらの強力な技術は、自然資源を節約し、汚染を排除し、脆弱な生態系を再生するのに役立ちます。

ドイツの偉大な詩人、フリードリッヒホルダーリンの言葉で、

*But where the danger is, grows
The saving power also.*

しかし、危険は存在し、成長する
節約力も同様である。

したがって、必要なのは、技術の「節約力」の適切な利用における広範な国際協力である。

最後に、環境破壊に対する最も効果的かつ確実な「武器」は、すべての宗教の教えに組み込まれている非暴力（サンスクリット語の「Ahimsa」）の原則です。人類は創造できないものを破壊する権利を持っていません。人間関係を非暴力的にする限り、人間と自然の関係は非暴力的になります。逆もまた同様です。

人間の生活の質の低下、疎外と地域社会の崩壊の主な理由の 1 つは、これらのよく似た暴力形態の蔓延していることです。人類が生存するためには生物多様性が保護されなければならず、また人間種にとってはそれが確かに神の創造物であり、真に神の美しく豊かな創造物であることが証明されなければなりません。

ありがとうございました。